

## 共通言語としての ICF の教育・普及を目的とした会議の開催について(案)

### 背景

ICF(生活機能分類)は保健、医療、福祉、介護、教育、社会学など、広範囲に渡る専門的知識を必要とし、個別具体的な事項については、委員会を設置し、検討を行う必要があることから、2006年2月、厚生労働省社会保障審議会統計分科会のもとICF専門委員会が設置され、現在まで活動と参加について評価点基準を策定するための暫定案を提示するなど、ICFの普及に向けた議論を行っている。また、ICFに関する国際的動向として、普及を促進するための研究開発が活発になっている中、日本においても普及の可能性や利用における課題や問題点を明らかにするため、介護、リハビリテーション、医療連携等におけるICFの具体的な研究や活用の事例の報告が行われている。

### 会議開催について

今後この取り組みを更に深め、共通言語としてのICFの普及のための研究開発を促進することを目的に、会議(シンポジウム)の開催を提案するものである。この会議では、保健、医療、福祉、介護、教育、社会学など分野における専門職、及び研究者を主な参加者とし、専門委員を含む研究者等によるICFの活用事例の発表を行うことを想定している。この会議を通じて、異なる職種間の情報交換が活発化し、連携が促進されるなどの波及効果も考えられる。

- 日程:本会議の開催は2009年秋頃の終日
- 場所:開催地は東京又はその近郊
- 参加者:保健、医療、福祉、介護、教育、社会学などの関係者 300名～400名程度
- 事務局:厚生労働省ICD室
- 座長:ICF専門委員会大橋委員長